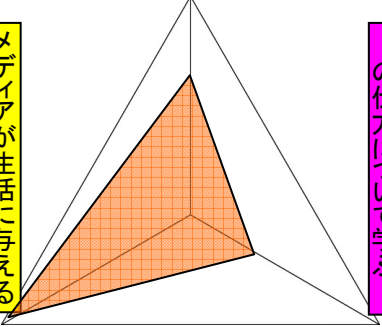


<b>研修名</b>	先生も体験！ マスメディア情報をじっくりと見よう「新聞」編(75分)	
<b>研修のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ出来事を伝える新聞記事でも、新聞社によって表現の仕方が違うことを知る。</li> <li>・新聞をはじめマスメディア情報は、商業とのかかわりなど社会的な文脈から影響を受けていることを知る。</li> <li>・体験したことをもとに、メディアとのつきあい方学習の授業を構想する。</li> </ul>	
この研修のメディアセンター	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     メディアの特性と適切なメディアの選択の仕方について学ぶ                 </div> 	<b>研修の意図</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○想定する教員の状況                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ出来事でも新聞社によって表現が異なることは、ある意味常識だが、なぜ表現が異なるのか掘り下げて考えるようなことは、日常あまりしない。こうした体験を通して、マスメディア情報を分析的に読み解く力を育てるための指導力を身に付けたい。</li> </ul> </li> <li>○パッケージの目標                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・2社のテニス世界選手権の記事を読み比べ、違いを見つけ、なぜ違うのかという理由を社会的な文脈から考えることができる。</li> <li>・子どもを対象にどんな授業を実践すればよいか構想できる。</li> </ul> </li> <li>○留意点                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の新聞記事を使って活動する方が望ましい(ただし教員研修の場合、複製する際には新聞社の許諾を得る必要がある。)</li> </ul> </li> </ul>

受 = 情報の受け手としての知識を得る・配慮を知る     
 送 = 情報の送り手としての工夫・配慮を知る

**I. 2社の新聞記事を提示し、分析の仕方を伝える(5分)**

○違いをできるだけたくさん見つけましょう。なぜ違うのか理由も考えましょう。

相違点に着目し、記事へ線を引いたり書き込みをしたりするよう確認する。

2, 3名のグループ単位で活動するのが望ましい。

2社の新聞記事  
教材提示装置(拡大)

**II. 2社の新聞を分析し、違う理由を考え、発表する(30分)**

○(机間巡視しながら)写真が違うのには、何か理由があるのでしょうか？

送 2社記事の写真の違いに着目できていないグループには、それぞれの写真がどんな意図で使われているかを考えるように促す。

○(机間巡視しながら)なぜこういう理由を考えついたのですか？

受 相違点の背景に考えを及ぼすように促す。

○「違い」と「その理由」が分かるように、紹介しましょう。

受 (記事内の)佐藤選手の所属会社と新聞社とが系列会社ではないか、という点に着目できていなければ、そのことに触れ、取り上げ方に違いがある理由を考えさせるようにする。

2社の新聞記事  
教材提示装置(拡大)

**III. 社会的な文脈から影響を受けている情報を見つけ、理由を考える(15分)**

○同様に「マスメディア情報」が社会的な文脈から影響を受けている例を見つけましょう。

個々が付箋紙にできるだけたくさん書きだした後、グループで紹介し合いながら模造紙上に分類・整理する。

送 制作者の立場に立って、なぜそのような情報の内容になってしまうのか考える。

受 身の回りのマスメディア情報は、多くが社会的な文脈から影響を受けていることに気づく。

付箋紙、模造紙(半分使って)

**IV. 実践について話し合い研修のまとめをする(25分)**

○今日研修したことを、子どもたちにはどのように教えればよいか考えてみましょう。

グループで授業概要を構想・紹介する。(実施学年 実践名 ねらい 主な活動)

○研修の意義をまとめます。

受 新聞をはじめマスメディア情報は、商業とのかかわりなど社会的な文脈から影響を受けている。そのことを知った上で、情報は冷静に受け止めなければならない。子どもにも教える必要がある。

メディアつきゾーン3つの学ぶことを、それぞれ大切に指導する。そのためには、体験的な活動を通して知識を身に付けることが大切。活動の中で情報の「送り手」「受け手」を共に体験することが必要。

マジックペン、模造紙(Ⅲで使った残り半分)